

事 務 連 絡
令和6年11月6日

関係各博物館 代表者 殿

文化庁企画調整課

令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修の実施

文化庁では、学芸員の資質向上を目的とした研修事業についても、法改正の趣旨を踏まえた改編を進め、令和4年度より、文化をつなぐ研修、トップマネジメント研修、パブリックリレーションズ研修の3研修を実施しております。

このうち、博物館に勤務する学芸員等専門職員を対象とし、地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに必要な知識・技能の習得を目指す「ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」を下記の要領で開催することとし、受講者を募集します。

ついては、貴館において本研修への参加希望者がある場合は、応募者ごとに下記応募フォームへの入力を行ってください。受講の可否については文化庁において選考のうえ決定し、応募者に直接通知します。

記

1. 開催趣旨：ミュージアムの学芸員等専門職員を対象に、地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、博物館経営能力の向上を目指す。
2. 主 催 者：文化庁、国立アイヌ民族博物館
3. 対 象 者：博物館に勤務する学芸員等専門職員又は同様の職務を行う者
4. 実施期間：令和6年12月3日（火）～6日（金）（4日間）
5. 開催会場：国立アイヌ民族博物館（北海道白老郡白老町若草町二丁目3－1）
6. 実施方式：①現地参加（50人／全日程全科目の受講が可能な者）
②講義科目のみの配信視聴（200人／部分受講可）

7. 研修内容：別紙のとおり

8. 申込方法：受講希望者本人が下記のリンク先にアクセスし、必要事項を記入する。

<https://forms.office.com/r/jYSVHbkwL0?origin=lprLink>

申込期限は、令和6年11月20日（水）12時まで

9. 備考：・受講決定は、11月20日（水）17時までにメールで通知を予定。

- ・現地参加の場合、全日程全科目の受講を修了の要件とし、部分受講は認めない。受講及び配布資料は、無料とする。
- ・講義科目のみの配信視聴の場合、受講は無料とし、パソコンの用意や通信に係る費用は、各受講者が負担すること。
- ・修了証は交付しない。

ただし、現地参加において全日程全科目を履修した受講済者については、当研修の修了者として氏名を文化庁ホームページに公表予定。

問合せ先

文化庁 企画調整課 博物館振興室 研修担当（山口）

住所：〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

電話：03-5253-4111（内線 3152）

E-mail: museum@mext.go.jp

12/3(火)	時間/講師	テーマ	概要
開講式	09:45～10:00	開講式・ガイダンス	
基調講演	10:00～11:00	共に生きる博物館	多様な社会や文化の中で暮らす人々との関係性自体がテーマとなる民族共生象徴空間とは何か。民族文化の復興、創造を通じた共生の取組から、多様性あふれる未来社会を展望する。
	佐々木史郎 (対面)	国立アイヌ民族博物館長	
使命の策定と存在意義	11:15～12:15	博物館の価値を社会に開く、共に創る	文化政策の変遷と現在地点について解説するとともに、改正博物館法と周辺法で示される「これからの博物館」について考える。
	中尾智行 (対面)	文化庁 参事官(文化拠点担当)付 博物館支援調査官	
	13:30～14:30	メッセージの届けかた 共感と呼ぶ展示と博物館活動	八戸市美術館、東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアルを例として、ミュージアムのメッセージを届け、共感と呼ぶための展示のありかた、アートを通じた地域づくりについて考える。
	吉川由美 (対面)	文化事業ディレクター/有限会社ダ・ハ プランニング・ワーク代表取締役	
	14:45～15:45	街と繋がる、街を創る	昆虫館が街と繋がる。「鳴く虫と郷町」の実践を通して虫の音を聴きながら秋を愛でる伝統文化を街の景色のなかに再生。街と繋がりがりながら魅力形成を仕掛けていく博物館活動とは。
	坂本昇 (対面)	伊丹市昆虫館 館長	
グループ討議 1	16:00～17:00	討議 地域デザインに向けた取組と展望	自館における地域デザインのための取組と展望を参加者間で話し合い、自らの視野角を拡げる。
	文化庁博物館振興室、国立アイヌ民族博物館		

12/4(水)	時間/講演者	テーマ	概要
施設見学	10:00～12:00	国立アイヌ民族博物館	
価値の認識と創造	13:30～14:30	ミュージアムのコミュニケーションデザイン	社会との関係性のなかでミュージアムの価値を再発見し、発信と交流により利用者や社会の認識を変えるコミュニケーションデザインについて実践的に解説する。
	シルベスタ典子 (オンライン)	キャンドルウィック株式会社 代表取締役社長	
	14:45～15:45	美術館のSNSマーケティング戦略	公式からの発信だけでなく、来館者をひとつのメディアとしても捉え、多様なファン層にアプローチしていく戦略的なSNSマーケティングの展開に学ぶ
	洞田貫晋一郎 (オンライン)	洞田貫プランニングス代表取締役	
ロジックモデルの作成と評価	16:00～17:00	ミュージアムは何のために存在するのか - 使命とメッセージ	ミュージアムの目的と使命を内外で共有し、その活動を改善、充実させていくためのロジックモデルと評価手法について学ぶ
	佐々木亨 (対面)	北海道大学 特任教授	

12/5(木)	時間/講演者	テーマ	概要
グループ討議2	10:00～14:30	ミュージアムのロジックモデル - 作成	ミュージアム経営に欠かせない使命の策定と、活動と評価の指針となるロジックモデルの作成についてワークショップ形式で実践的に学ぶ。
	佐々木亨、文化庁博物館振興室、国立アイヌ民族博物館		
グループ討議3	15:00～17:00	ミュージアムのロジックモデル - 発表	同上
	同上		

12/6(金)	時間/講演者	テーマ	概要
博物館法改正に	10:00～11:00	デジタルアーカイブ活用のための法と権利	博物館資料のデジタルアーカイブにかかる法的権利や処理・対応、デジタルヒューマニティーズの視点など、専門的見地から概説する。
	数藤雅彦 (オンライン)	五常総合法律事務所 弁護士	
	11:15～12:15	発展と充実のためのミュージアム経営	公益のためのミュージアム経営はどのように行われるべきなのか。国内外の動物園経営の比較から、これからの発展の一手を見出していく。
	佐渡友陽一 (対面)	帝京科学大学 准教授	

に 伴 う 重 要 事 項	13:30～14:30	探究心を育むデジタルアーカイブ	学校教育におけるデジタルアーカイブの活用実践を通して、新しい学びの創出とデジタルアーカイブの可能性について示していく。
	大井将生 (オンライン)	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 特任准教授	
	14:45～15:45	博物館実務の法令とリスク管理	学芸現場において必要となる関係法令(銃刀法、租特法、ワシントン条約等)とリスク管理について、注意すべき場面と対処について概説する。
	山口俊浩 (対面)	文化庁 企画調整課 博物館振興室 建築資料調査官	
討議 閉講式	16:00～17:00	まとめ 質疑応答、全体討議	参加者全員及び文化庁職員による質疑応答